

☆☆☆2010年夏☆☆☆

チャイナ本キャンプ報告書

Friends International Work Camp (FIWC) 九州



発行： 2010年夏 FIWC 九州チャイナキャンプ

はじめに

村人のために自分にできること

洗濯？掃除？

それとも水道管をつなぐこと？

おじいちゃん、おばあちゃん

喜んでくれるかなあ

もっと村人の力になりたい

けど、自分になにができる？

なにが…

難しく考えなくていい

ただ…そばにいる

これだけでいい

隣でほほ笑む

その笑顔とぬくもりで

心が落ち着く

そしてまた、笑顔が増える

その暖かさで、笑顔がつながっていく

まるでヒマワリみたい

夏になると

ぱっと花開く

また来年の夏も

再来年の夏もずっとずっと

ヒマワリの花が咲き誇りますように



僕はばんぱくん！
うわ～左の詩素敵だなあ～
誰が作ったんだろう！？



照れるなあ～実は僕しーやんだよ！この
夏、ワークキャンプに参加して、感じた
ことを詩にしてみたんだ。



ワークキャンプかあ…なんだかよくわからないけど、すご
くいい体験ができそう！僕も参加してみたい！



うん、ぜひ参加してみて！
じゃあ、ばんぱ君にこれをあげるね。ワークキャンプ参加
のトラノマキだよ！



しーやん！ありがとう！！

ばんぱ君はトラノマキとひまわりの種をしーやんからもらった。

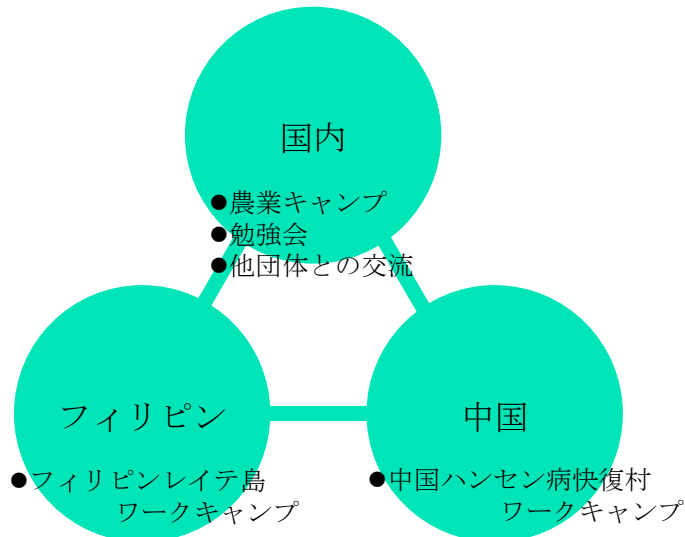


トラノマキって何を書いてあるんだろう…。どれどれ

ワークキャンプとは

ワークキャンプは国内外の様々な場所で行われているボランティアプロジェクトである。ボランティア活動の一種であり、世界各国の現地住民たちと共同生活を行い、福祉やインフラ整備などの農村開発などに取り組む。

FIWC 九州とは



世界の問題を現地住民と一緒に解決に向けて取り組むこと、国内外を問わず世界の人々の相互理解の促進に努めることの2つを目的とした団体である。2005年春に行われたフィリピンキャンプを始めとして、現在では中国、国内を合わせた三つの地域を中心として活動を展開している。

【中国】

中国国内に多数あるハンセン病快復村にて現地 NGO『家-JIA-』と協力してインフラ整備やデイリーケアを行っている。

【フィリピン】

現地 NGO『NorWeLeDePAI』と地方政府の協力のもと、農村部貧困地域にてインフラ整備(水道や橋などの建設)を行っている。

【国内】

大分県耶馬溪での農業キャンプ、毎月開催する勉強会(FIWC Party)、他学生団体や NGO 団体とのイベント開催や情報交換などの交流を行っている。

中国キャンプとは

FIWC 九州の中国キャンプでは、現地 NGO『家-JIA-』の中国人学生と共にハンセン病快復村にてキャンプを行う。かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人たちは完治した今もなお、後遺症や周囲からの差別から、不便な生活を強いられている。そこで私たちは村人や中国人学生と共同生活をしながら、次の4つのことを行う。

- ◆ ワーク…トイレ建設や水道設備設置などの村のインフラ整備
- ◆ ハウスワーク…後遺症のため困難となった、食事や洗濯などの日常生活の補助
- ◆ 啓蒙活動…周囲の村に住む人々に対する正しいハンセン病の理解の促進
- ◆ イベント…村人と楽しい時間を共有するためのパーティの開催

ワークキャンプといってもワークだけをするのではなく、村人との交流をはかったり、心から楽しいと感じてもらえる時間をつくることも、この活動を行う重要な意義である。

ハンセン病とは

ハンセン病とは「らい菌」に感染することで起こる病気で、かつては「らい病」言われていた。感染すると手足などの末梢神経の麻痺や、皮膚に炎症を引き起こし、知覚麻痺や失明、運動障害、身体の一部が変形するという後遺症が残ることもある。「らい菌」は感染力が弱く、たとえ感染しても通常は発病しない。しかし、外観からわかる顔面や手足の変形を発端に、ハンセン病差別が始まった

現在での治療法は、1980年以降 WHO 世界保健機関の推奨により、多剤併用療法(MDT)が使用され、早期に治療すれば後遺症を残さずに完治するが、このような明確な治療方法が確立されていない時代には、隔離政策が唯一の解決策とされた。ハンセン病患者は、日本や中国を始めとした多くの国で、療養施設に隔離され、日本でも法律のもとで施設に強制収容されていたのである。

中国のハンセン病事情

中国には約 600 にも及ぶ大小さまざまなハンセン病快復村がある。WHO が定めた公衆衛生問題としてのハンセン病は制圧されたが、ハンセン病に対する差別、偏見は根強く残っている。そのためハンセン病が治癒しても社会復帰できない人が多数おり、彼らの生活は地方政府支給の生活給付金に依存している。地方政府によってはその財政上の問題から、非常に少額の給付金しか支給できないところもある。今現在も 50 年以上前に建設された倒壊寸前の家屋で、水道設備やトイレ、電気すらない環境での生活を余儀なくされ、孤独な生活を送っている高齢の村人が大勢いる。

ばんば君は村に向けて出発した。



どんな出会いがあるかな～楽しみ！

◇今回のスケジュール◇

日付	内容
8月13日	福岡出発
15日	村到着
24日	村出発
25日	桂林到着・桂林観光
26日～29日	カンファレンス・桂林出発
30日	上海到着
31日	上海万博
9月1日	上海博物館
2日	上海観光・夜景

<シャンロン村キャンプ>

◇交通アクセス◇

場所	時間	交通手段
福岡市～上海市	1 時間 40 分	飛行機
上海市～長沙市	2 時間	飛行機
長沙市～邵阳市	3 時間	車をチャーター
邵阳市～小沙江鎮响龙村入口	3 時間	バス
响龙村入口～响龙村	30 分	徒歩

長旅を経て、ばんぱ君は村に到着した。そして、村長に出会った。

◇キャンプ一日の流れ◇

時間	内容
6 時 30 分	起床
7 時	体操
7 時 30 分	朝食
8 時 30 分	ワーク開始
12 時	昼食・昼休み
2 時 30 分	ワーク開始
17 時	ワーク終了
18 時	夕食
20 時	ミーティング
21 時	自由行動
24 時	就寝



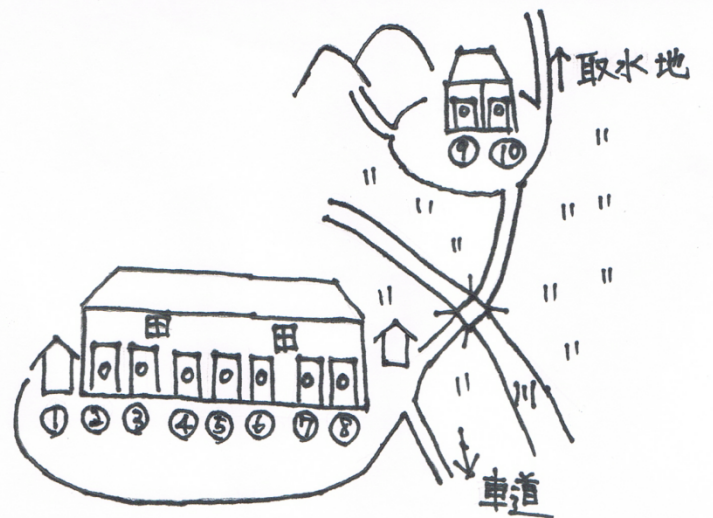
ようこそ、ばんぱ君。ワシがこの村の村長じゃ。村について説明をしよう。

◇村の情報◇

気候(夏)	朝晩は肌寒く、昼は涼しい。午後から夜にかけて、雷雨になることが多い。
水	村の上にある取水池から水道がつながっている。はじめ、手洗い場は村の上 に二か所と下に一か所あったが、今回のワークで村の下に四か所の手洗い場 ができた
家	古い。窓が割れて無かったり、雨漏りすることがあった。
トイレ	一昨年のワークで作られたトイレがあったため、比較的環境は整っていた。
周辺地域	隣の村まで歩いて 30 分くらい。隣の村人もハンセン病について知っている人 も多いが、いまだに怖がっているひともいる。しかし、たまに村を訪れる人 もいる。
病院	村の中に病院はないが、こまめに医者が来てくれる。
村人	村には六人の村人がいる。ほとんどの村人がよつんばいで歩くため、膝に傷 を作り、化膿してしまっている。しかし、精神状態は良い人が多い。
経済	政府から毎月 150 元の生活資金をもらっている。スイカズラ、じゃがいも、 トウモロコシ、インゲンマメ栽培、農地の貸与代(出来高の 30%をもらう) によって生活している。電気、水道、トイレがあり、比較的良好な生活環境で生 活している。

村の概要

- ① トイレ
- ② キャンパーが寝泊まりした部屋
- ③ キャンパーのキッチンと荷物置き場
- ④ ワンおじさん宅
- ⑤ リューお婆さん(村長の奥さん)宅
- ⑥ 村長宅
- ⑦ ヤーおじさん宅
- ⑧ 道具置き場
- ⑨ ロウお婆さん宅
- ⑩ ワンおじさん宅



ばんぱ君はワークリーダーのミシャに出会った。



ワークっていうのは、住環境やインフラ環境の改善を目的とした建設プロジェクトのことだよ。さっそくやって



うん！がんばろう！！

☆ワーク☆

ワーク 1 手洗い場をつくる 水道管の増設



元の水道管を枝分けして2本にした



手洗い場を新しく三か所作った。

日程	活動内容
8/16	水道管のパイプの買い出し
8/17	手洗い場(三か所)作り、テーブル作り
8/18	トイレの屋根の補強、風鈴づくり、水道管の接続
8/19	水道管の交換
8/20	車道から村までの道路の整備(除草)
8/21	ワークはお休み
8/22	水道管の交換、椅子と食器棚作り
8/23	椅子作り

村の下部には手洗い場が一つしかなかった。そのため水道管の増設を行い、新しく手洗い場を各村人の玄関に作り、村人が使いやすくした。

(地図参照)



ワーク 2

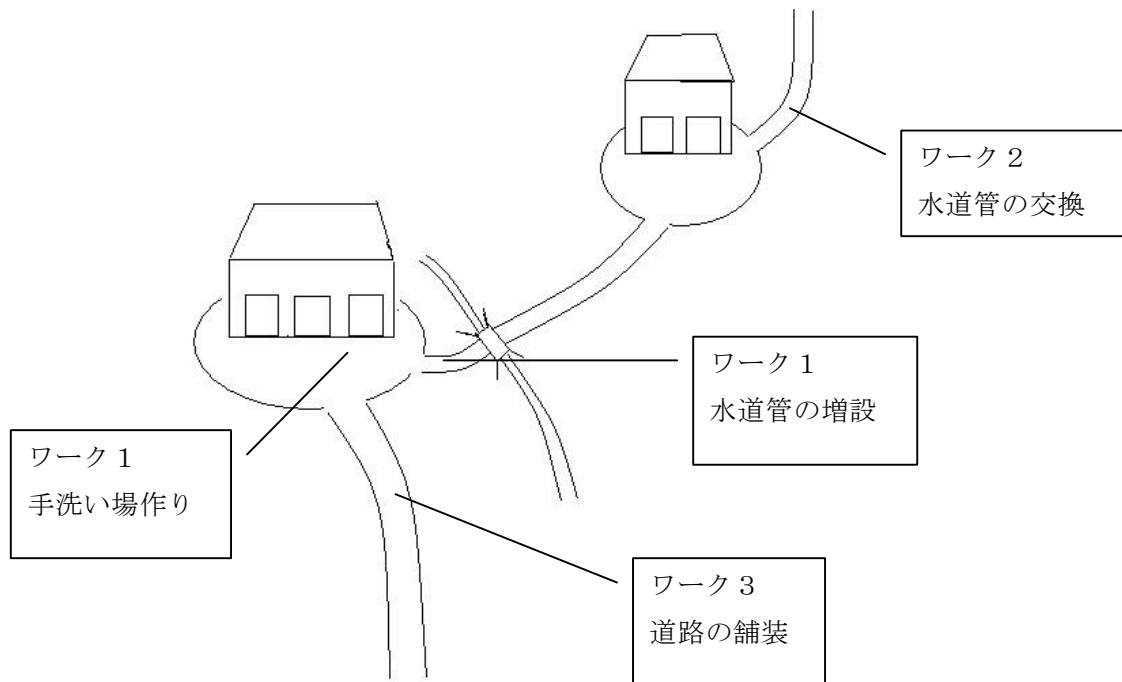
貯水地からの水道管の交換

取水地から村の上部に伸びる水道管の老朽化が進んだため、新しく水道管を入れ替えた。(地図参照)



ワーク 3 道路の整備

道横の草が生い茂り、さらに道路が凸凹であったため、除草を行い、道路に土を盛るなどして、道路を平らにした。(地図参照)



ワーク 4 食器棚づくり

村の上部に住む王おじさんの食器棚を作った。
今までの王おじさんの食器棚は背が高く、
老朽化も進んでいたため、新しい食器棚を
王おじさんの手の届く場所に置いた。



ワーク 5 風鈴づくり

日本人主導のワークとして、キャンパーが村を去っても、風が吹いて風鈴が鳴るたびに、私たちのことを思い出してほしいという思いから、風鈴を作った。材料は村にあった空き瓶とキャンパーが持ち寄ったもの。

☆ハウスワーク☆



あ、しーやん！なにやってるの？



いいところに来たね、ばんぱくん。このシート洗うの手伝ってくんない？



うん、分かった！これがハウスワーク？



そだよ。難しくないけど大変なんだ…って、うわわわっ！ばんぱくん水出し過ぎ！！



わあっ！

主な活動内容

	午前	午後
8/15(月)		村到着
8/16(火)	洋服、ベッド用品渡し	おしゃべり、歌
8/17(水)	ビデオレター観賞	chinese knot
8/18(木)	洗濯、脱穀	風鈴作り
8/19(金)	洗濯、米乾燥	薪割り、散髪、髭そり
8/20(土)	対句作成、掃除	フォトアルバム作成、日本茶
8/21(日)	宣伝活動	ガラス補修、ラジオ渡し、対句貼り
8/22(月)	ガラス補修、膝あて	パーティー
8/23(火)	村出発	

ハウスワークとは村人に直接行うワークのことで、生活面でのお世話を主に行う。中国キャンプで最も大切な活動のひとつであり、フィリピンキャンプとの一番の違いである。

上記のように今回は日本、中国の伝統的な遊びや芸術、デイリーケア、思い出作りを行ったが、訪問しておしゃべりしたり、歌を歌ったりすることもハウスワークになる。普段外部とのつながりが希薄な村人にとっては、こんな日常的なことが大切なのである。



洋服プレゼント



ビデオレター



対句



Chinese knot



散髪



フォトアルバム



洗濯



訪問



ふう、ハウスワーク終わりっと。どうだったかな、ばんぼくん？



村人と一緒にご飯食べたり、お話できて楽しかった！



ハウスワークはいろんなことやるけど、そういうシンプルなことがハウスワークの基本で、一番大切なんだ。また、いつでも来てね(^O^)



うん！ありがとう、しーやん(^O^)/

☆イベント☆

ばんぱ君はイベントリーダーのつなみに出会った。



イベントは何をするの？



イベントは村のおじいさんやおばあさんと一緒にご飯を食べたり、ダンスなどを披露したりして、楽しい時間を共有するよ！

イベントとは・・・

パーティや食事会などを通して村人や中国人キャンパーと交流することで同じ時間を共有したという思い出を作ることを目的としている。

Japanese Dinner



日本食としておでん、親子丼、カレーを作り、中国人キャンパーに振る舞った。食後にはビールも用意し、ゲームをしたり話したり中国人キャンパーと交流を深めた。

Farewell Party



キャンプ最終日、村人とキャンパー全員が集まって料理を食べたりお酒を飲んだりしながら、事前に練習していたダンスや歌、劇を披露した。日本食として豚汁、肉じゃがを作り、「ソーラン節」や「LOVEマシーン」のダンスと歌を日本人キャンパーで発表した。

☆啓蒙活動☆

村を出発したばんぱ君は隣の村に立ち寄った。そこで元キャンパーであるユキトと出会った。



ボクはこの村で啓蒙（ケイモウ）活動をしているんだ。



ケイモウ活動??



そう。ハンセン病快復村に対する偏見や差別を取り除いて、村に対する興味・関心を持ってもらうための活動なんだ。

J I Aの活動を知ってもらって、活動を拡大させるのも目的



すごい！ボクもやってみよう！

・目的

ハンセン病快復村に対する偏見や恐怖感を、隣村の住民たちから払拭し、正しい知識を持ってもらうこと。

・方法

隣村を訪ね、3人ずつ6グループに分かれて各家庭を訪問した。ハンセン病や快復村の状況についての説明や、NGO団体JIAについての説明を行った。



隣村の人に説明をするキャンパー



快復村やキャンプ概要についてのポスター

隣村の村人の中には快復村についてよく知っている人もいたが、ハンセン病を少し怖がっている人もいたことがわかった。そのような人にハンセン病についての正しい知識を与えることができた。

ただし中国語を話せない日本人キャンパーは、会話に入ることができなかつたため、来年以降の啓蒙活動では方法を検討する必要があると感じられた。

<反省>

☆ワーク☆

- ・道具が足りなくやることがなかったので準備をしっかりすべきだった。
- ・ワークに対する積極性が欠けていた。
- ・自分で仕事を見つけてやって、ワークにもっと参加すべきだった。
- ・ワークリーダーから参加メンバーにもっと指示すべきだった。
- ・水の手配をしっかりすべきだった。
- ・日本人主体でワークが進んでいてよかった。

☆ハウス☆

- ・毎日村人に会うべきだった。
- ・全村人の家にキャンパーが均等に行くべきだった。
- ・日本人がキャンプの最初から積極的に村人と関わるべきだった。
- ・村人と交流できないハウスワークがあったので、ハウスワークの内容を事前にしっかり検討すべきだった。
- ・ワークの時間にワークと関係ない人がいたので正すべきだった。
- ・村人に対する情報をもっとシェアすべきだった。

☆イベント☆

- ・最後の日のパーティの開始が遅れた。
- ・パーティの宣伝をもっとすべきだった。
- ・村人を配慮せず、**JAPANESE DINNER**のメニューを選んでいた。
- ・中国キャンパーと一緒に参加する項目があつてよかった。
- ・村人参加型のクイズもあつて皆が参加できたのでよかった。

☆宣伝☆

- ・質問に対する回答を統一すべきだった。
- ・日本人が取り組みにくいので最初から諦めている部分があつたけど、もっと出来ることを工夫すべきだった。
- ・ある程度の家をまわり、宣伝することが出来たのでよかった。
- ・行事にあまり参加していなかった。
- ・行事に参加して交流を深めるべきだった。
- ・見習うところとかよくないところを把握し、**FIWC**にも活かすべきだった。
- ・色んな人々と話す機会が出来、刺激的だった。

☆準備☆

- ・日本のハンセン病の療養所についての勉強をすべきだった。
- ・中国キャンパーとのやり取りがうまくいかなかった。

- ・連絡手段を変えてみる（QQ を利用）。
- ・翻訳機を利用。
- ・ダンスの練習をもっとすべきだった。
- ・事前の資料確認が不足していた。
- ・先輩キャンパーとの交流をもっとすべきだった。
- ・防寒具が足りなかったので持ち物リストをきちんと確認すべきだった。
- ・日本のお酒やタバコを持ち物リストに入れると良い。
- ・持ち込む食材が少ないメニューで荷物が少なくなってよかった。

☆生活☆

- ・全体において時間を厳守すべきだった。
- ・虫さされ予防をもっとしっかりすべきだった。
- ・休み時間をより効率的に使うべきだった。
- ・お酒酔いで大げさにつぶれる人が少なく良かった。

☆その他☆

- ・中国語の勉強を各自でもっとしていたり、電子辞書を持っていったりすれば、コミュニケーションがよりスムーズに出来た。
- ・ご飯が食べられなくてもマナーとして同席すべきだった。
- ・キャンプ期間が短く、期間内に出来ない部分があったので、もっと長くすべきだった。
- ・前キャンパーとの情報シェアをより積極的に行うべきだった。
- ・ウコンの力は役に立った。
- ・全ての日本人キャンパーが中国のキャンプに参加する意義を明確に理解すべきだった。

< 会計報告 >

航空券(国際線)	55,555
航空券(中国国内)	10,000
保険	7,000
ビザ	3,000
生活費	23,880(1592元)
カンファレンス参加費	1,500(100元)
合計	100,935

生活費詳細

キャンプ参加費	270元
食費	147元
交通費	440元
雑費	352元
宿泊費	383元
合計	1592元

※ 1 元 = 15 円

<カンファレンス>



うわあ、たくさん人がいる！これがカンファレンスか

	午前	午後
26日(木)		顔合わせ、ゲーム
27日(金)	JIA紹介、活動報告	各地区委員会紹介、活動報告、ムービー観賞
28日(土)	グループディスカッション	キャンプTシャツコンテスト、打ち上げパーティー
29日(日)	解散	

FIWC 九州と協力関係にあり、中国でのワークキャンプ活動を取りまとめているNGO 団体が JIA である。JIA が新体制になって2回目となるこの代表大会に、FIWC 九州も傍聴者として参加した。



↑ FIWC 九州の時間には、ソウルの説明とあきらの同時通訳で活動内容を紹介した。

↓ 会場のホテル前にて



↑ 日本人キャンパーによるソーラン節

会議風景→



各地区の報告も、前日夜遅くまでリハーサルをやるなど、この大会に向けた志の高さがうかがえた。また、JIA スタッフによる同時通訳など日本人への配慮もなされていた。去年以来、キャンプ地やスポンサーの増加により、さらに発展をとげている様子である。ただ、新体制になり各地区が特色あるキャンプを実行していると聞いていたが、独自性はまだ薄いと思った。中国人キャンパーと多く繋がる大切な場であるので、継続して参加したい。



いろんな人と話せて楽しかった！来年もまた来ようっと(^O^)



みんな！バイバイ！！！！またね
～

<感想>



ワークリーダー反省 (ミシヤ)

みんなにスムーズに指示出しができなかったこと、中国側のワークリーダーにワークの指揮を任せてしまったこと。言葉の問題もあるが、事前にワーク内容(人数、手順、使う道具等)を聞き出せばよかった。

ほんわかしてても実はしっかり者。その強靱な胃には感激です☆でもビールは飲みすぎないでね！恋するぞ！

By つなみ

私はこのキャンプで様々なことを体験できました。本格的にボランティアに取り組んだことも初めてだったし、海外に行くことも初めてでした。私は英語が得意ではないので、中国人キャンパーとコミュニケーションをとるのも難しかったです。しかし、私になるべくみんなと過ごそうと努力すれば、打ち解けることができました。言葉は、人と人が分かり合うのに、そんなに大切ではないのだなと思いました。また私は、誰かに喜んでもらえることがこんなに嬉しいことだとは思いませんでした。初め、こんな辺鄙な村に住まわされて大変だな、もし自分だったら耐えられないという同情の気持ちが大きかったのですが、何日か村人と過ごしてみて、まるで本当の自分のおじいちゃん、おばあちゃんのように感じました。自ら村人に何かしたいと思えて、喜んでもらえて、自分も嬉しくなるそんな貴重な体験はなかなかできないと思います。本当に村人とキャンパーに感謝しています。



イベントリーダー反省 (つなみ)

ごはん前に歌う歌を教え合ったり、寝る前に皆でゲームをしたりと、言葉がわからないながらも楽しく交流できたのではないかと思います。パーティでの日本食も好評で、イベントを通してたくさんの交流が深められたと思います。

そろそろダンス練…ってまた寝てる！なんでも笑顔でこなす元気印★あきらとの芸工コンビは永遠やね(^O^)

by しーやん

この中国キャンプは私にとって、初めてのワークキャンプであり、初めての海外でした。思えば言語を含め中国の知識はほとんどないに等しかった私が、このキャンプに参加するというのはあまりに無謀だったのかもしれませんが。言語や食事で苦勞することもありました。でも「もうすぐ帰っちゃうね」「明後日帰るの?」「もう明日だね」とキャンプ終盤になるにつれ、そう話す村人を見て、ただ座っていただけだった私でも、この人たちに何かしてあげられていたんだと実感できて、とても感動しました。あの約10日間という期間

はあっという間で、でも本当に中身がいっぱい詰まった貴重な時間となりました。三国志について必死に熱く語ってくれたキャンパー。輪になり肩を組んで歌った日中それぞれの歌。最後の日、泣きながら別れを惜しんでくれた村人たち。本当に忘れられない 10 代最後の夏になりました。



KP リーダー反省 (ソウル)

私はほとんど何も出来なかった気がする。最初は中国キャンパーと話し合いをしていたけど、後からは彼女とコミュニケーションがあんまりとれなかったり、ワーク初日でけがをしちゃったりして迷惑ばかりかけた。もっと積極的に参加するべきだったと思う。

ごはんを食べないと思ったら、アイス、菓子、…とりあえず、ごはん以外はよく食べる (笑) キャンプでは、意外にも中国語を理解できるとしたら、足になんか刺さり、いたたた (汗)

By アキラ

就職も決まって遊びたい気持ちがいっぱい 4 年生の夏。のこの時期にキャンプで過ごした時間はかけがえのないものになりました。そして「人」の大切さをもう一度確かめる時間になりました。村人、キャンパー、そして私自身の家族…。まず、このキャンプが始まる時は、「え、本当ここで生活できるのかな」と若干不安になっていたのですが、最後は自分にも理解ができないほどの涙がこぼれていました。そしてキャンパーは、言葉が通じなくてもただ向かい合っているだけで笑顔になるような存在になりました。最後に家族はこのキャンプが終わるときには、一日でも早く会って抱きしめたいと思いました。

ただ、時間を無駄にしたくないという気持ちで始まったこの旅が私にこれほど大切なものをくれるとは思いませんでした。これからはこの宝物をいつまでも大切に守ってきたいです。



ハウスワークリーダー反省 (しーやん)

初めは不安だらけでしたが、みんなの自主性もあって積極的に活動できました。指示不足でキャンパーが固まることや、言語面から中国人キャンパーに頼りがちだったのが反省でしたが、キャンプを通してハウスワークの意義や重要性を理解していったと思います。

超マイペース!!超B型!!でもどんなにひどい扱いされようと、皆のことを考える心優しい奴。だから憎めません(笑)

By ルミ

どのワークキャンプにも必ず意味があると思う。場所によって回数によって、それは違

う。初めての中国キャンプで自分が感じたのは「生きる」ということ。それを村人に教えてもらった。キャンプ中時々思ったのは、自分が村人の立場だったらどう思うだろうってこと。自分がこんな山奥の家で、手足も不自由で…たぶん生きる意味を失ってる。楽しいことが少なすぎる。なぜ村人はそれでも笑えるの？今まで生きてこれたの？そんなことを思いながら覗き込んだ村人の目には…自分達の姿が映ってた。これがきっとその理由。1年間 365 日で、自分達に会える日はほんの一割程度。それ以外は、人に会う日さえ滅多にない。けど、「生きる」。そのほんのわずかな楽しさに十分生きる意味があるから。本当に村人がそう思ってるかは分からない。けどそう考えたとき、もっと自分は強く生きるべきだと思った。日々なにかに追われ、時間がなくて遠くたって、足が歩くなら大切な人達に会いに行くこともできる。忙しくても乗り越えられる。まして、ニュースみたく命を捨てるなんてあり得ない。これからの自分の道に大きな意味をもたらしてくれた村人と仲間に、
謝謝。



レコーダー反省 (ルミ)

毎日のMTG議事録についてはよく記録出来たと思います。ずっと訳をしてくれたアキラ・あやちゃん・さゆみちゃんに感謝！カメラも常に持ち歩いて、たくさんの写真を撮れたと思います。自分の参加していない活動も、皆の協力で記録が出来ました。協力ありがとう♪

お～っ！女の鏡！飲めるし、働かし、飲めるし☆飲んだビールはどこに行ってるの？
私もそんな女性になりたいです。

By つなみ

学生最後の夏。卒業研究、実習に勉強…。周りはやるべきことを着実にやっている。そんな中私はワークキャンプに参加した。2回目の中国、2度目のハンセン病快復村。毎日いっぱいの笑顔で迎えてくれる村人。中国語のわからない私にも、たくさん話しかけてくれる。つたない英語でその言葉を伝えてくれる中国人キャンパー。そんなコミュニケーションの中で、とても暖かな感情が生まれる。家族にも向けたことのないような感情。何もない山奥だけど、また絶対戻って来たいと思う場所。それがハンセン病快復村。今回のキャンプを通じて、人を労わること、思いやり、自分でも誰かを喜ばせることが出来ることなど、本当にたくさんの大切なことを学んだ。それは勉強して得られる知識なんかよりも、ずっと価値のあるものだと思う。まだ 22 歳、将来これらのことがどれだけ役立つかわからないけど、絶対にいい糧になる。キャンパーのみんな！また一緒に村に戻ろうね。



語学リーダー反省（あやか）

「あいうえお」と基本的な挨拶を学びました。日本キャンパーと中国キャンパーと一緒に発音したり、互いに教え合ったりととてもいい雰囲気でした。この時間が互いの文化や言語に興味を持つきっかけになればと思います。

いつもニコニコながんばり屋。でもたまに抜けててほっとけないタイプ。可愛くてつい意地悪しちゃいますよ！

By ルミ

はじめ村の人たちに挨拶をしに行った時は、正直これからどうハウスワークをしていけば良いか分からなかった。しかし、中国キャンパーが自分の身の上話をしたり一緒に歌を歌っている様子を見て、私もそれを真似するようになった。村の人たちは私たちをととても歓迎してくれ、日々私たちの仕事ぶりを暖かく見守ってくれた。私はこの8日ほどで村の人たちに対して自分の祖父母へのような親しみを感じるようになった。ワークキャンプでは私たちがいかに村人の役に立てるかということよりも、私たちと村人の心と心の触れ合いが一番重要であるのだと感じた。

キャンプを通して学んだことはそれぞれ違うが、いつでも快く迎えてくれる2つめの故郷ができたことは、私たちキャンパーにとってひとつの大きな喜びである。機会があれば、また村を訪れて、また村の人たちと楽しく身の上話をしたい。きっと村の人たちはきらきらした笑顔で、優しく迎えてくれるだろう。



ライフリーダー反省（サユミ）

就寝部屋に毎晩蚊や虫が多く苦しむキャンパーが多かったので、もっと何か対策をすべきだった。就寝部屋の布団をせめて何日かに一回は干すべきだった。荷物部屋の管理があまりいきとどいていなかった。途中から日直を決めて仕事を振り分けたが、やるべきことが明確でない部分があった。

しゃおみー♪ダンスも中国語もまかせた！でもそんなに食べたらダイエット出来んぞ？(笑)またキャンプ一緒に本当嬉しかった(^O^)

By シーやん

今回は、初めての参加だった中国キャンプ。私は今中国に留学中で、現地からの直接参

加させてもらった。留学前からもともと参加することを決めてはいたけど、普段生活している北京と違う中国が見れたらと、楽しみにして臨んだキャンプ。久しぶりの FI メンバーとの再会にもすごくわくわくした。

キャンプが終わってこの村での滞在を振り返ってみると、本当にあつという間だったなと思う。ハンセン病については昔から知っていたけど、実際にその病気を持つ人と関わるのは初めてだった。どんな感じなのか、想像がつかなかったけど、別に特別なことは何もなくて、村のおじいちゃん、おばあちゃんに関わる中で、日本人とか中国人とか病気があるとかないとか関係なく人と人とのつながりを感じることができた気がする。村のおじいちゃん、おばあちゃんは私たちが家に訪問に行くといつも笑顔で私たちを迎えてくれて、嬉しそうに笑いかけてくれた笑顔は今でもすぐに思いだせる。忘れられない。こうやってハンセン病のおじいちゃん、おばあちゃんに関わって、日本に帰ったら、地元にあるハンセン病療養所も行きたいと思った。行ってみるべきだと思った。

そして一緒に滞在した中国人キャンパーとは、すごくいい友達になれて嬉しかった。一緒にご飯作って食べて、昼はワークをして村人を訪ねて、夜は部屋にぎゅうぎゅうになって寝る毎日。たった 10 日くらいしか一緒にいれなかったのが残念くらい、一緒に過ごした日々はホントに楽しかった。村人とも中国人キャンパーとも、話す言葉が聞き取れなくても通じ合えるものがいっぱいあった気がした。

このキャンプ、体は虫さされだらけになるし、お風呂は真水だったし、もちろんネットや娯楽施設もないし、普段の生活からしてみたら不便なことの方が多かったけど、でもやっぱりまた行きたい。一度日本に帰るけど、来年また戻ってきたい！そんな風に思えるキャンプだった。

最後に、日本人キャンパーの仲間には本当に感謝してる。準備にあまり携われなかったり迷惑もかけたけど、一緒に参加できてうれしかった！そして何より、このメンバーで参加できて一緒にいろんな思い出が作れて本当によかった！ありがとう。



ジェネラルリーダー反省 (アキラ)

今回のキャンプでは準備段階でもっとキャンプの意義などを伝えるべきだった。もっと初キャンパーをアプローチすべきだった。

我々のリーダー。だからすこーーーし強引な事もしちゃうお兄さん。中国語完璧だけど同時通訳には向いてないようです。 By ソウル

今回は、初めてリーダーとして望んだ本キャンプだった。今回のキャンプは僕にとっておそらく最後のキャンプになると思った。だから、すばらしいキャンプにしようと思っ

て、あえて本キャンプだけじゃなく、カンファレンス、上海万博などをすべて含めてキャンプスケジュールにした。滞在期間は例年より長くなったが、とても楽しくて有意義で、濃厚なキャンプを過ごせた。今回の村でのキャンプは初めてだったが、村に入ったときに村のおじいちゃんやおばあちゃんが外に出てきて歓迎してくれて本当に感動した。また、キャンプで改めてハウスワークの重要性を認識した。三回目のキャンプで<村人のそばに
いるだけでいい>ということを実に理解した気がした。村人にとって一番大事なのは僕
たちが行くこと、一緒にいること、何も話せなくてもいい言葉も通じなくてもいい
ことだと感じた。

カンファレンスでは他の委員会のキャンパーなどといっばい話せて、とても刺激にな
った。万博ではいろんな国のパビリオンを見て面白かったし、あらためて日本の技術のす
ばらしさを実感した。

今回のキャンプが無事に終わったのは、みんなのおかげ！本当にありがとう！！



そして、しーやんがばんぱ君にあげたひまわりの種が大輪の花を咲かせ
た！



☆参加メンバー☆

飯野 美里 (みしゅ)
岩永 慎也 (しーやん)
浦上 絢加 (あやか)
太田 津奈美 (つなみ)
大津 瑠美 (ルミ)
久保 晶 (アキラ)
徳永 紗弓 (サユミ)
韓 ソウル (そっちゃん)

フレンズ国際ワークキャンプ九州 (FIWC) 九州
Mail:fiwcq@hotmail.com